
家庭科教育部会

I 研究の内容

1 「衣生活」の研究を進めるにあたっての研究の柱

(1) 基礎・基本の定着

- ア 目標とする姿を設定し、自己評価をさせていく。
- イ 適切な自己評価ができるように、ワークシートを工夫していく。

(2) 生活に活かせる工夫を取り入れた作品づくり

- ア 誰が、いつ、どんな場面で使うのか等の作品の活用場面を考えることで、必要となる工夫を作品づくりに反映させる。
- イ 作品づくりで、生徒が工夫できそうな内容を、教材化しておく。

(3) 言語活動の充実

- ア 班での話し合い活動を意識的に取り入れていく。
- イ 自分の考えを書き込むことができるように、ワークシートを工夫していく。

以上のことをふまえ、昨年度までに製作してきた視聴覚教材を有効に活用しながら、基礎縫いの定着を図り、「リバーシブルバックの製作」の中に生活に活かせる工夫を取り入れ、授業実践をおこなうこととした。

2 授業実践（山梨南中学校 古屋奈穂子教諭）

本研究の授業実践として「生活を豊かにするバック作り ～活用ポケットのデザインを発表しよう～」をおこなった。

(1) 本時の授業実践をするにあたり、取り組んできた関連のある学習内容

- ア 基礎縫いの定着 ⇒ 手順カードと視聴覚機器を活用して、解りやすい授業を実施した。
- イ 基礎縫い診断テスト ⇒ 技能の習得を確認し、デザイン決定の参考資料とする。
- ウ ポケット画像の収集 ⇒ ポケットのデザイン決定や製作への興味関心を高める。
- エ ポケット見本の提示 ⇒ 製作可能な見本から、デザイン決定の参考とする。

(2) 本時の展開部分での工夫

- ア 発表の方法・アドバイスの観点を明確にして、生徒に提示する。このことによって、聞く側も発表を聞く時のポイントをはっきりとさせる。
- イ 自分のデザインの工夫を発表し、アドバイスしあうことで、もう1度自分のデザインを振り返り、再考することにつなげた。

(3) 授業を終えて（授業者より）

授業を終えて、まず生徒たちのポケット作りへの意欲が高まったことを感じた。

事前の授業で、バックの使用目的にあわせてポケットのデザインや活用方法を考えたが、それぞれが目的を持って作ろうとしていることがワークシートへの記入から伺われた。

また、友達の発表に対して返すアドバイスについても、できるだけ具体的な言葉を使って伝えることができていた。しかし、そんな意欲を持った生徒たちに対して、自分のデザインしたポケ

ットが実際に作れるのかどうか、より現実的に想像させることについては難しかった。

また、発表の仕方についても、声の大きさや発表する速度、デザイン画の見せ方など、ちょっとした工夫でわかりやすい発表ができることを感じた。これは、家庭科だけでなく、様々な場面で日常的に経験していく必要がある。

今回の授業は、今まで学習してきたことを生かし、それを活用する授業であったが、生徒たちが創意・工夫する前に、「製作についての知識・理解の定着」が図られていることが大切であること、そして、それを現実のものとして作り上げていく「基礎的な裁縫の技術・技能の習得」の必要性を強く感じた。

自分のデザインしたものが形となり、生活に活用できることの楽しさを一人でも多くの生徒たちが感じられるような授業の展開について、さらに研究していきたい。

II 成果と課題

1 成果

誰が・いつ・どんな場面で使うのか等の作品の活用場面を考えることや、先輩達の作品を写真で見たり、使用している姿を見ることで、より具体的に生活に活かせる工夫を考えることができた。

また、本時の授業を行うまでの積み重ねとつながりを大切にすることが、生徒の意欲的な活動につながった。(基礎縫いの習得 → 基礎縫い診断テスト → ポケットの画像の収集 → ポケット見本の提示 → デザインの構想)

使用したワークシートが工夫され、教師側からの与える情報がたくさんあったことで、自分の考えをしっかりとまとめ、発表することができた。また、友達に対してもアドバイスをすることができた。このように、考えを発表することで、自分のデザインの良さを友達に認めてもらうことができ、製作への意欲につなげることができた。

2 課題

今まで学習してきたことをいかし、それを活用する授業を考え実践したが、生徒達の意識は高く、自分の思いを様々なデザインと言葉で表現していた。これらの思いを実現するためには「基礎的な裁縫の技術・技能の習得」が必要となってくる。このため、少ない実習時間の中で、いかに基礎・基本を定着させ、到達度や達成感を持った作品作りをさせていくかが、悩みであり、これらのことを解決していくことが課題である。

この課題を解決していくために、自己評価のあり方の検討や活用を意識させ、目的に合わせた作品作りを目指すことができるように、さらに研究を続けていきたいと思う。

また、多種多様な作品を生徒達が作ることで、教師側の評価をどのようにしていくのが良いのかは、課題である。このことについても、研究・検討を続けていきたいと考える。

III 成果物

- 1 授業案「生活を豊かにするバック作り ～活用ポケットのデザインを発表しよう～」
- 2 授業実践にともなうワークシート
- 3 ポケットの実物見本、ポケットの製作手順カード (部長 鈴木美奈子)